

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回お示しする以下の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテ情報の利用をご了解頂けない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

ビノレルビンによる静脈炎の改善に向けた投与方法の検討

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院

【研究責任者】 田中 守（薬剤部長）

【研究目的・意義】

抗がん薬の投与中あるいは投与終了後、明らかに血管外へ漏れていないにもかかわらず注射針を刺している周囲に血管痛（痛み）や静脈炎（炎症）などを生じることがあります。特に、ビンカアルカロイド系の抗悪性腫瘍薬ビノレルビン（VNR）は静脈炎（炎症）の発現率が高い薬で、症状の出現によっては患者さんの生活の質や治療コンプライアンスの低下に繋がることと言われています。

VNRによる静脈炎（炎症）の予防方法に、添付文書では約 50 mL の生理食塩水等に希釈して 10 分以内に投与すること、投与後は点滴（生理食塩水等）で十分に洗い流すことが奨められていますが、これらの方法を用いても依然として静脈炎（炎症）の発現率が高いことが問題となっています。そのため、愛媛大学医学部附属病院（当院）では静脈炎（炎症）の予防方法が記載されている既報告を参考に抗がん薬の投与スケジュール等を変更しました。

本研究では、抗がん薬の投与スケジュール等の変更前後における静脈炎の発現状況およびその改善効果を検討することを目的に調査します。

【調査の対象となる患者さん】

2014年4月～2021年5月までに、当院において非小細胞肺癌に対してVNR+シスプラチン（CDDP）またはVNRを単剤で投与した患者さんを対象としています。

【研究方法】

調査の対象となる患者さんについて、電子カルテ（IBM）より以下の項目を調査します。

【調査項目】

年齢、性別、身長、体重、BMI、喫煙歴、飲酒歴、Performance Status、病期分類、前治療歴、VNR 投与量、VNR 投与回数、CDDP 併用の有無、放射線治療併用の有無、静脈炎発現状況、副作用発現状況（骨髄抑制、患者の主訴）等

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる個人情報を除いて匿名化します。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

< 試料・情報の管理責任者 > 愛媛大学医学部附属病院 薬剤部 山下 登

【研究実施体制】

研究機関: 愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

研究責任者: 薬剤部長 田中 守

791-0295 愛媛県東温市志津川、電話番号: 089-960-5730

研究分担者: 副薬剤部長 飛鷹 範明

薬剤師 山下 登

室長 濟川 聡美

薬剤師 阿部 まり絵

薬剤師 矢野 安樹子

薬剤師 伊賀 久美

薬剤師 眞鍋 綾

【研究に関する問い合わせ先】

本研究からご自身の情報を除いて欲しいという方は、下記の連絡先までお申し出下さい。また、本研究に関する詳細な資料を希望される方や詳細な情報を知りたい方は、下記の連絡先まで連絡をお願いします。他の患者さんの個人情報の保護および知的財産の保護等に支障がない範囲でお答え致します。

愛媛大学医学部附属病院 薬剤部 山下 登

791-0295 愛媛県東温市志津川

電話番号 : 089-960-5746